

皆様おはようございます。

ついに今週は受難節となりました。金曜日は受難日です。イエス様の小さなろばに乗られてのエルサレム入城から宮きよめ、最後の晚餐、そして夜半の不当逮捕、そして鞭打ち、そして十字架の死がこの週に続きます。

あんなにイエス様万歳とってお迎えしたのに、人々は扇動されてか「その人を殺せ。バラバをゆるしてくれ」と叫び、暴動と殺人とのかどで獄に投げられたバラバの釈放を願います。これは到底まともな判断ではありません。

「ところが、彼らは大声をあげて詰め寄り、イエスを十字架につけるように要求した。そして、その声が勝った。」ついにピラトはその勢いに屈しました。

26 彼らがイエスをひいてゆく途中、シモンというクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて十字架を負わせ、それをになってイエスのあとから行かせた。

ゲッセマネの園で祈り通され、夜通しいたぶられ、そして鞭打たれ、十字架の横木を担がされて目抜き通りを見世物にされ歩かれてイエス様。何度も倒れ、ついに力尽き、近くにいた通行人にその横木が担わされました。クレネ人シモン。今でいう北アフリカの田舎から出てきた人でした。ただ近くにいただけなのに、イエス様の血で赤く塗られた重い十字架の横木を担わされ、人々の好奇の目でさらされることは苦痛であったに違いありません。しかしここからシモンとイエス様との関係が始まりました。どうしてこの人はこの重苦しい呪いの木を負うことになったのだろうか。どうしてあの重罪人バラバの代わりにこの人が十字架を背負うことになったのだろうか。どうしてこの温和な方が、人々の強い怒りを買ってこのような仕打ちを受けなければならないのであろうか。一足一足、彼はイエス様を間近に見ながら十字架の横木を背負って進みます。

27 大ぜいの民衆と、悲しみ嘆いてやまない女たちの群れとが、イエスに従って行った。

バラバを釈放せよと叫んだのがすべての民衆の姿ではありませんでした。むしろ祭司長たちによって仕立てられた人たちであったとみることが出来るでしょう。

ここに、大ぜいの民衆と、悲しみ嘆いてやまない女たちの群れとが、イエスに従っていました。その人たちにイエス様は言われました。

28 イエスは女たちの方に振りむいて言われた、「エルサレムの娘たちよ、わたしのために泣くな。むしろ、あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために泣くがよい。

29 『不妊の女と子を産まなかった胎と、ふくませなかった乳房とは、さいわいだ』と言う

日が、いまに来る。

30 そのとき、人々は山にむかって、われわれの上に倒れかかれと言い、また丘にむかって、われわれにおおいかぶされと言い出すであろう。

31 もし、生木でさえもそうされるなら、枯木はどうされることであろう」。

イエス様にこのような恐ろしい迫害の猛威が押し寄せるのならば、信じる人たちにもどのような辛いことが押し寄せるのか。それに耐え抜くことが出来るだろうかと、イエス様は信仰ある人たちのための心遣いをなさいました。生きることもあきらめ、一刻も早く息絶えてしまいたい、山よ、われわれの上に倒れかかれと言い、また丘にむかって、われわれにおおいかぶされと言うまでに、人々の苦しみは増し加わるとイエス様は語られました。生きた、緑の生木でさえもこれほどに苦しめられ、かろうじて耐えられるのであれば、弱く心もとなない人々は、枯れ木のようにボキボキと折れてしまう弱き民はいかなるやと、イエス様は血みどろになって何度も倒れ、立ち上がる力もなくうち伏しながら、信仰者たちの心配をしてくださいます。

32 さて、イエスと共に刑を受けるために、ほかにふたりの犯罪人も引かれていった。

33 されこうべと呼ばれている所に着くと、人々はそこでイエスを十字架につけ、犯罪人たちも、ひとり右に、ひとり左に、十字架につけた。

死罪にあたる二人の犯罪人がイエス様と共に引かれて行きました。

されこうべ、骸骨と呼ばれる場所の事ですが、詳しいことは分かっていません。その場所が骸骨の形のような小高いところであったとか、処刑された者たちの死骸が転がっていたとか聞きますが、不吉な雰囲気のあるところです。

イエス様は二人に犯罪人の間に十字架につけられました。

その時、イエス様は言われました。

34 そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。人々はイエスの着物をくじ引きで分け合った。

人は自分のしていることがどのように悪辣で、神様からさまよい出てそのことを行っているのかが分からない時があります。主の弟子であるペテロもまたそうでした。彼は聖霊によってイエス様を告白してこう言いました。

マルコ 8:29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。

しかしその後で、彼はイエス様にお説教をし始めます。

マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、

8:32 しかもあからさまに、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せ、いさめはじめたので、8:33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

「あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」

私たちにも何度主はこのお言葉を語りかけられたことでしょうか。私たちは何度、主のお考えを考えることなく、自分勝手な思いをもって主をお煩わせしたのでしょうか。

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」

イザヤ 53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

1 ペテロ 2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のように迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

このイエス様の恵みの言葉が思い出されます。

黙示録 21:6 そして、わたしに仰せられた、「事はすでに成った。わたしは、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいている者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。21:7 勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神とな

り、彼はわたしの子となる。

35 民衆は立って見ていた。役人たちもあざ笑って言った、「彼は他人を救った。もし彼が神のキリスト、選ばれた者であるなら、自分自身を救うがよい」。

36 兵卒どももイエスをののしり、近寄ってきて酢いぶどう酒をさし出して言った、

37 「あなたがユダヤ人の王なら、自分を救いなさい」。

38 イエスの上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札がかけてあった。

39 十字架にかけられた犯罪人のひとりが、「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエスに悪口を言いつづけた。

ここに、異口同音にイエス様に対して仕掛ける言葉があります。

- ・彼は他人を救った。もし彼が神のキリスト、選ばれた者であるなら、自分自身を救え。
- ・あなたがユダヤ人の王なら、自分を救え。
- ・あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ

最後の「われわれも救ってみよ」は、どさくさにまぎれた言葉ですが、役人も、兵卒も、十字架の犯罪人も、何でお偉い、立派なあんたのような人が自分を救えないのか。そんなにおめおめと死に向かっているのか、今までの元気はどうしたのか、結局ペテンなのではないかと、あざけり、ばかにし、お慰みものにして、傍観しながら高みの見物をして、一興に付していたということです。

結局はそんなものか、何を言ってもやっても、結局はその程度だったのか、はあばかばかしいと、侮辱し、ばかにし、蔑んでいたわけです。人間、勢いのある時には皆平伏したりするものですが、いざ落ち目になれば、みんな寄ってたかってなぶりものにする。本当に恐ろしい、自分より上か、下かの世界があります。利用できるものは利用しつくして、用無しになっただけじゃああっさりから見捨てるというのも人の本音であると言わざるを得ません。

40 もうひとりは、それをたしなめて言った、「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか」。

41 お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」。

人の罪の芬々たる悪臭の立ち込めるこの泥沼のような場所で、きよい悔い改めの一輪の蓮の花のような輝きがここにはあります。

「自分のやったことの報いを受けるのは当たり前」自分は罪を犯した。しかしこの方は何も悪いことをしていない。

ただ身代わりとして、贖いとしてここにおられるのだ。

この悔い改めた罪びとは、イエス様の執り成しの祈りを聞いていました。また数多くのあざけりの中、この期に及んで死期の迫る中、格好をつけても仕方がないのに、この方は、心の底から憐れみと愛とを絶やさずに祈り続けておられる。この方は実に、何も悪いことはしておられない。自分がここにつくにあたって、自分のしてきたことの帰結であることはありありと分かる。自分ばかりが悪いわけではないと、近くの人を恨んだり、人のせいにしたり、社会のせいにしたりしてきたが、このお方がここについておられることに比べれば、自分のしてきたことによってここについているのは当然だ。それなのに、どうしてお前はこの人をさっきから責め立てているのだ。お前は神を畏れないのか。イエス様を見ているうちに、彼の心には確かな罪の自覚が生じ、そして正しい方が十字架についているのは罪びとが罪から立ち帰るためであることを悟り、イエス様の救いを懇願するようになりました。

42 そして言った、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」。

43 イエスは言われた、「よく言うておくれが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。

44 時はもう昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ。

45 そして聖所の幕がまん中から裂けた。

46 そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。こう言ってついに息を引きとられた。

47 百卒長はこの有様を見て、神をあがめ、「ほんとうに、この人は正しい人であった」と言った。

次にイエス様の正しさを見たのは異邦人ローマの百卒長でした。彼は刑の執行人として、数多くの犯罪人を見てきました。その彼が見るところ、本当にイエス様はほかの犯罪者たちとは異なっていました。ここに彼の証言があります。

「ほんとうに、この人は正しい人であった」

昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及び、地震が起こり、聖所の幕がまん中から裂け、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」

「ほんとうに、この人は正しい人であった」

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」

今際(いまわ)の時、人は真実を語ります。イエス様は、本当に父なる神様を父と呼び、ご自身の霊を父なる神様の御手にお委ねになりました。

その人の命の最後の言葉がこれでした。

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」

我々の尊き神を父と呼び、自らをその子であると称し、神を冒瀆する者。そう断罪され、十字架の刑に処されましたが、真実は変えようがありません。

イエス様にとって神様は父なる神でした。そしてその父なる神様にご自身の靈魂をお委ねになるということが真実の安全と平安とをもたらすことであることを主は知っておられました。

ヨハネ 1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。

1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

48 この光景を見に集まってきた群衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打ちながら帰って行った。

49 すべてイエスを知っていた者や、ガリラヤから従ってきた女たちも、遠い所に立って、これらのことを見ていた。

さて、イエス様の十字架のお姿を見て、深くイエス様に引き寄せられた3人の人たちについてお話ししました。

ひとりにはクレネ人シモン。次に十字架の上の罪人、そして百卒長でした。

クレネ人シモンについては、後日譚があります。マルコ 15 章には、アレキサンデルとルボスとの父シモンというクレネ人として紹介されています。

マルコ 15:21 そこへ、アレキサンデルとルボスとの父シモンというクレネ人が、郊外からきて通りかかったので、人々はイエスの十字架を無理に負わせた。

実はその子ルポスの名が、ローマ書に出て来るこのルポスと同じ人なのではないかということなのです。

ローマ 16:13 主にあって選ばれたルポスと、彼の母とに、よろしく。彼の母は、わたしの母でもある。

突然に、不条理にも担がされた主の重い十字架。しかしこの十字架によって彼はイエス様を知りました。イエス様をじっと見つめ、このイエス様こそはご自身の罪過のためにこの十字架を担っておられるのではないことを彼は悟ったのです。シモンはほんの少しの間だけ肩代わりしただけです。しかしイエス様はその実を十字架に釘付けられ、命を落とすまでその十字架に従われました。そこに赴く必要のないお方が、何も悪いことをしておられないお方が、どうしてそこまで身をやつされるのか。それはこの神の子を十字架につけ、下に見、馬鹿にして、こき下ろし、軽蔑し、さあそこから降りてみると、自分のしたことの報いを受けるべき者が、神を恐れずに、人の罪を取り除く神の小羊として進んで赦しの十字架につきたもうこの方を侮辱している、その罪を贖うために十字架に就かれた方こそが民の救いであることに気付かされたのです。

そして彼が変わり、彼の家族が変わりました。妻も子も、祝福を得、神の家族、宣教の協力者となりました。異邦人に救いが広がりました。

私たちにとってこの十字架のイエスという方は、どういう存在なのでしょう。

私たちもまた、この方をじっと見ます。

突如として重荷を背負わされることもあるかもしれません。それは大変な不条理のように思うかもしれません。しかしこれは主の十字架です。私がすべて担うべき処刑の道具は、主への処刑の道具とされ、私の身代わりとなられたお方のおかげで、私への死罪は、処刑は過ぎ越されたのです。

マタイ 11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」

主よ、御手もて引かせ給え。ただわが主の道を歩まん。いかに暗く陰しくとも御旨ならばわれ厭わじ。アーメン。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。多くの人たちが交錯する主の十字架でした。神を馬鹿にし、自分を救ってみろとののしる者たち。彼らはイエス様の十字架に至る役割を全く理解していませんでした。しかし脇の十字架の犯罪者に、異邦人の百人隊長に、遠くアフリカのキレネのシモンに、イエス様のことを本当に理解するに至る者たちがいました。そして私たちもまた、イエス様の十字架の意味を本当に理解する者でありますように。あなたのお苦しみはわが罪のためです。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン